

項目	4 静岡県版ウエルネスプロジェクトの推進について
答弁者	健康福祉部長
質問要旨	<p>知事は、選挙戦で「健康寿命の延伸に向けた静岡ウエルネスプロジェクト」を掲げていた。</p> <p>浜松市では、市民に対する「予防・健康事業」と、地域企業等に対する「ウエルネス・ヘルスケアビジネス支援事業」を行う「浜松ウエルネスプロジェクト」を産官学連携により推進している。</p> <p>「ウエルネス」とは、健康を基盤とした「幸せな人生や暮らし」と広い意味で捉え、病気の治療ではなく、予防・健康増進に置く考え方である。</p> <p>「予防・健康事業」においては、健診情報や医療情報を「一連のデータ」として、個人にフィードバックし、あるいは積極的に健康増進に活用していくことが、重要とされており、聖隷福祉事業団が有する市民の健診データを、浜松医科大学や静岡大学と連携し、データ分析を進めていると聞いている。</p> <p>本県にも社会健康医学大学院大学の研究成果や、フーズヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトのこれまでの取組の蓄積があり、これらを組み合わせることで県民全体の健康寿命延伸が期待される。</p> <p>静岡県版のウエルネスプロジェクトについて、どのように取り組んでいくのか伺う。</p>

<答弁内容>

静岡県版ウエルネスプロジェクトの推進についてお答えいたします。

県では、県民の健康寿命の延伸に向けて疾病予防や健康増進の視点に立った取組を科学的知見に基づき効果的に進めるため、静岡社会健康医学大学院大学を設置し、疾病予防や健康づくりに資する研究の推進、取組を支える専門人材の育成、研究成果の社会実装を推進しております。

具体的な研究内容といたしましては、国民健康保険等加入者265万人の医療・介護・健診の「一連のデータ」であるKDB(ケーディービー)データの分析や、特定の集団を長期的に追跡し、データを収集・分析するコホート調査研究を賀茂地域や袋井市で進めております。また、静岡市と大学院大学が連携協定を締結し、糖尿病発症予防等に向けた取組が始まったところであります。

また、大学院大学が持つ健康関連のビッグデータや研究成果を、地域企業のヘルスケアサービス創出に結び付けるため、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトにおいて大学院大学と地域企業との意見交換会等を実施しております。今後、活用が見込まれる大学院大学のシーズの掘り起こしと、企業とのマッチングにつなげてまいります。

県といたしましては、今後も大学院大学における研究成果を活用し、健康増進施策の効果を高めるとともに、民間企業等との連携により、研究成果の社会実装を着実に推進し、健康寿命の更なる延伸と県民幸福度日本一の実現を目指してまいります。

以上であります。

。